

地域イベントにおける洪水被害の歴史等を踏まえた水防災の意識向上の取組

- 平成29年1月7日(土)から8日(日)、「小学生とその家族」、「自主防災組織関係者」などの地域住民が参加して、国立大洲青少年交流の家で防災力向上キャンプが行われました。
- これは、近年、大規模災害が発生する頻度が高くなっており、近い将来、南海トラフ地震の発生も予想される中、地域の防災力向上は喫緊の課題となっているため、地元と行政が連携し、家族向けには「自助力」の養成を、地元住民には「共助力」の向上を図るための学びの機会としたものです。
- この取組において、「肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会」事務局にも参加要請があったことから、防災についての講義や防災車両を展示して説明を行い、参加した人達に防災意識を持つように喚起を促しました。

日時場所：平成29年1月7日(土)～8日(日)、国立大洲青少年交流の家

主催者：大洲から「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
主管：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

講師：肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会（大洲河川国道事務所、大洲市、大洲地区広域消防事務組合）
大洲環境とエネルギー研究会、アウトドアインストラクター・防災士

参加者：小学生及びその家族、公民館関係者、自主防災組織（約30名）

防災講義での反応

- ・近年の災害映像ダイジェストでは真剣な顔で映像を見ていた。
- ・最後に実施した自助、共助、公助の講義では、今の家庭での対応を子供と話したりし、家庭内での理解が図られていた。
- ・排水ポンプ車の配備など、四国に大型の災害対策車両が多く配備されているという説明に参加者が驚いていた。

各機関情報提供等

【大洲市】

- ・避難所生活、避難所設営についての講義及び演習

【大洲消防署】

- ・救出救護訓練を消防署員の指導で実施

